

# 月刊 あなたにこの本を！ 平成 21 年 1 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。



…字が大きめ



…中高生にも



…図・写真が多い

※価格のあとの( )内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。



## おんな作家読本 明治生まれ篇

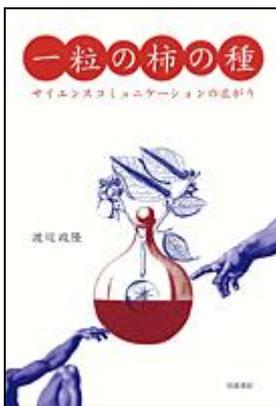


市川慎子 著

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

ポプラ社 1680 円 (0011715948)

ネット古書店の女性店主が、林芙美子、森茉莉ら明治生まれの女性作家 16 人を選び、印象的なエピソードをすくいあげて人物像をひもとく。略年譜や人物相関図、欄外には一口メモが掲載され、だれにでも楽しめるように紹介している。おしゃれでかわいらしい造りでまとめられ、さらに作家たちのお気に入りのお菓子や調度品の写真が彩りをそえる。仕事に、恋愛にと愉(たの)しく生きた「濃くて強くて個性的な彼女たちの世界」があふれている。 [910.26]



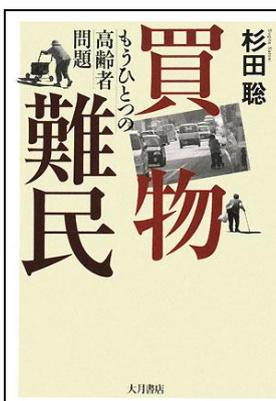
## 一粒の柿の種 -サイエンスコミュニケーションの広がり-

渡辺政隆 著

ジャンル：知識・教養を深める

岩波書店 1890 円 (0011717780)

科学者中谷宇吉郎は「雪の結晶を勝手に作ってみることが一番の楽しみ」という素朴な理由から人工雪を開発した。本書は科学に親近感を抱かせるエピソードを数多く盛り込んだエッセイ集だ。科学をわかりやすくひも解く著者は、誰もが科学に関心を持つことが大切、「科学の智」は万人の生活を豊かにする、と語る。題名には科学の種をまこうという意味がこめられ、様々な分野の蘊蓄(うんちく)に好奇心を刺激される。雑誌の連載記事の単行本化。 [404]



## 買物難民 -もうひとつの高齢者問題-

杉田 聡 著

ジャンル：現代社会を見つめる

大月書店 1680 円 (0011719654)

「買物難民」とは、郊外にできた大型店のために地元の商店街が衰退し、日常の買い物が困難になった人々をいう。その筆頭が高齢者であり、商品代より高い交通費をかけて買い出しにいく者もいるという。晩年の母の苦境をきっかけに、著者は6年をかけ全国を調査。高齢者の過酷な実態を詳細に報告する。また各地で少しずつ動き始めた支援の取り組みを紹介し、政府や自治体に対して支援体制を提言する。命すら脅かす深刻な問題に光を当てる初の書。 [369.261]

## 日本一小さな大名

—たった五千石で、徳川将軍家と肩を並べた喜連川(きつれがわ)藩の江戸時代—

山下昌也 著

グラフ社 1365円 (0011726106)

ジャンル：歴史・文化に親しむ

わずか五千石でありながら、由緒ある家格により、幕府から特別待遇を受けた下野(しもつけ)喜連川藩。本書は、ペールに包まれたこの小藩の歴史を、藩成立の秘話や、藩政にまつわる様々なエピソードを交えて詳しく紹介する。また、馬をも担ぐといわれた怪力自慢の茂氏(しげうじ)や、文武に優れ領民に慕われた熙氏(ひろうじ)など、個性豊かな藩主らの姿も、貴重な資料をもとに生き生きと描き出されている。歴史の意外な一面を発見できる一冊。 [213.2]

## 大阪探偵団

—対談 有栖川有栖vs河内厚郎—

有栖川有栖、河内厚郎 共著

沖積舎 2100円 (0011705440)

ジャンル：大阪にゆかりの本

推理小説家の有栖川と演劇評論家の河内、大阪在住の二人が関西各地で行った対談が集められた。話題は彼ら自身や関係業界の話から、大阪に関連する古今東西の事物まで、自在に移り変わる。現在に伝わる古代の町割や、アイデアを多発する風土など、軽快なやりとりからとび出す豊富な蘊蓄(うんちく)には圧倒される。「コテコテ」など一辺倒のイメージではない大阪を、再発見してほしいという思いが、少々辛口な言葉の端々から伝わってくる。 [291.63]

## 子どもの最貧国・日本

—学力・心身・社会におよぶ諸影響—

山野良一 著

光文社 861円 (0011720697)

ジャンル：現代社会を見つめる

モノにあふれた現代日本で、その日の食べ物にも困る子ども達が確実に増えている。今やひとり親家庭の貧困率は先進国一だ。著者は、日本の制度・施策の効果が見られず、政府はその問題を放置さえしていると指摘。児童福祉司としての日米における経験を踏まえ、貧困問題を軸に児童福祉問題へ真正面から切り込む。さらにユニセフレポート等の統計データや海外の理論を丁寧にひも解き、現状を分析、制度の問題点や解決策をより克明に浮き彫りにする。 [369.4]

## 日本語が亡びるとき

—英語の世紀の中で—

水村美苗 著

筑摩書房 1890円 (0011753653)

ジャンル：知識・教養を深める

作家であり、海外で日本近代文学を教える著者による日本語論。海外作家との交流をつづり、英語への一極化によって様々な言語が「亡びる」ことを語る。さらに、日本語の成り立ちや明治期における日本語をめぐる動向を論じ、「奇跡」的に生まれた日本近代文学についても述べる。最終章では日本語に愛惜の思いを込め、学校教育への提言を行う。12歳で渡米し、のちに仏文学を学んだ著者ならではの広範な知識と深い教養に裏打ちされた叡智(えいち)の書。 [810.4]

## 青春の終わった日

—ひとつの自伝—

清水眞砂子 著

洋泉社 1890円 (0011713032)

ジャンル：生き方・考え方に学ぶ

「ゲド戦記」の翻訳者としても知られる著者が、北朝鮮より引き揚げてきた少女時代から、児童文学の批評家を志す27歳までを綴(つづ)る。次々によみがえる当時の場面と共に、今だからこそ推し量られる家族一人ひとりの思いや社会事情を丁寧に描いていく。貧しい農村生活の中で、いさかきもありながら、互いを思いやる家族の姿は心を打つ。感傷に流されずにそと読み解いていくような文章にも、著者の人生に対する真摯(しんし)な姿勢が、貫かれている。 [910.28]